

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【七里中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	朝学習や自主学習の時間を計画的に設定し、反復練習を通して基礎的・基本的な知識の確実な定着を図っていく。
思考・判断・表現	朝学習や自主学習の時間を拡充することにより、従来授業中に行っていた反復練習を朝学習等に移行し、授業では思考力を育成する時間を確保する。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題>令和6年度の全国学力・学習状況調査およびさいたま市学習状況調査において、全教科の偏差値が50を下回っている。 <指導上の課題>反復や振り返りの時間を十分に確保できていない。	⇒ 授業中に基本的な漢字・計算・英単語・重要語句の反復練習をする。その成果を見るために、授業の中で確認テストをする【小単元毎にスモールステップで実施】。
思考・判断・表現	<学習上の課題>令和6年度の全国学力・学習状況調査およびさいたま市学習状況調査において、全教科の偏差値が50を下回っている。 <指導上の課題>知識の定着に時間がかかるため、思考力を育む時間を十分に確保できていない。	⇒ 授業において、生徒が課題に対して情報を収集し、グループで共有し、意見を交換する活動を通じて、自分の考えを理由とともに説明する時間を設ける【週に1度以上】。

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	授業中に基本的な漢字・計算・英単語・重要語句の反復練習をし、確認テストをすることで、スモールステップで知識定着に繋げることができた。しかし、授業の時間が確保できない分野もあったため、時間の捻出に課題が見られた。
思考・判断・表現	B	生徒の考えを、グループで共有し、意見を交換する活動をすることができたが、週に1度以上の実施はできなかった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、誤って書かれている漢字を見つけて修正すること、言葉の意味として適切なものを選択することができていた。数学では、素数をすべて選ぶことや、相対度数を求めることができていたが、外角の大きさを求めることなどの基礎的な内容に苦手意識を抱えている生徒が多かった。
思考・判断・表現	国語では、スライドを使ってどのように話しているのかを説明することや、発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるための助言などの、自分の考えことに苦手意識を抱えていた。数学では、説明する問題に苦手意識を抱えている生徒が多く、数と式・図形・関数など幅広い範囲で課題がみられた。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	全教科を通して、基本的な問題に対する正答率が高かった。しかし、理科の「軟体動物や節足動物の特徴」、社会の「国内各地の輸送手段の違い」などの一部の分野においては知識定着に課題が見られた。
思考・判断・表現	国語では「伝えるべき事柄を適切な位置に追加すること」、数学では「数量の大小関係を式に表すこと」、理科では「対照実験の結果から設問の答えを判断すること」に苦手意識を抱えている生徒が多かった。全教科を通して思考力を育む授業の実践が求められる。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	授業中に基本的な漢字・計算・英単語・重要語句の反復練習をし、確認テストをすることができた。	今後も継続していく【小単元毎にスモールステップで実施】。
思考・判断・表現	B	生徒の考えを、グループで共有し、意見を交換する活動をすることができた。	今後も継続していく【週に1度以上】。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)